

第9回（平成29年度）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウム開催概要

1 日時

平成30年2月10日（土）

■「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 午後1時～2時15分

■「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウム 午後2時30分～5時

2 場所

国立京都国際会館 メインホール

3 内容

（1）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

ミゲール・A・アルティエリ氏（カリフォルニア大学 名誉教授）、マーガレット・アン・マッキーン氏（デューク大学 名誉教授）、デニス・L・メドウズ氏（ニューハンプシャー大学 名誉教授）を第9回殿堂入り者として顕彰し、認定証及び記念品を授与しました。殿堂入り者からは記念スピーチを頂きました。



認定証の授与



記念スピーチ（アルティエリ氏）



記念スピーチ（マッキーン氏）



記念スピーチ（メドウズ氏）

(2) 国際シンポジウム

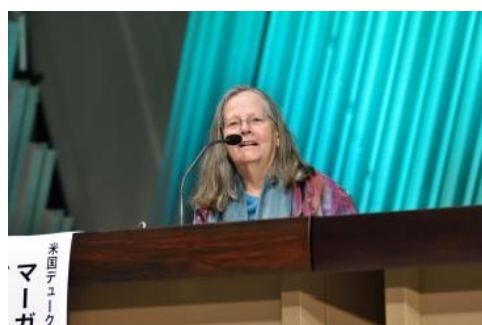
『「成長の限界」から持続可能な社会へ』をテーマにシンポジウムを開催しました
ア 記念講演

【ミゲール・A・アルティエリ 氏】



我々が抱える将来の課題の克服のためには、農業生態学に基づいた農業が重要であり、それを推進していくためには、ネットワーク作りや適切な政策が必要であると述べられました。

【マーガレット・アン・マッキーン 氏】



伝統的なコモンズ（共有資源及びその管理法）を良いモデルとして環境保全を進めることが重要であるが、それが実践できる制度の構築が必要であると述べられました。

【デニス・L・メドウズ 氏】



「成長の限界」は現実のものとなっており、従来のアプローチとは違う方法をとらなければ問題を解決できない。今後は、環境に対する脅威を排除するのではなく、環境の変化に適応する強靱性が今後は重要になってくると述べられました。

イ パネルディスカッション



〔パネリスト〕

ミゲール・A・アルティエリ 氏（殿堂入り者）
マーガレット・アン・マッキーン 氏（殿堂入り者）
デニス・L・メドウズ 氏（殿堂入り者）
知花 くらら 氏（タレント）
〔コーディネーター〕
阿部 健一 氏（総合地球環境学研究所 教授）